

## 大井町立湘光中学校

研究テーマ：「主体的に学習に取り組む生徒の育成に向けて」～聴いて、考えて、つなげる授業づくり～

### 1 実践の目的

本校の取組として、「学びのステップ」「カンファレンス」「学習プラン」などがある。「学びのステップ」では、聴き方、話し方を身に付けさせることで、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させると共に、生徒同士の話し合い活動を充実させ、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育もうとしている。「カンファレンス」では、様々な学年の生徒と授業について話し合い考えることで、学びを深化させ主体的に学習に取り組む態度を養うことをねらいとしている。そして、「学習プラン」を生徒に提示することで、様々な生徒の発達段階を考慮しながら、生徒の言語活動や学習の基盤をつくる活動を充実させようとしている。これらをとおして「生徒が主役」の授業をつくりあげ、生徒一人ひとりの生きる力を育むことを目的とする。

### 2 実践の内容

#### (1) 研究組織

「学習の基盤となる資質・能力」を育成する授業を提案するために、各教科を3つのグループに分類し、研究を進めた。

#### ○グループA【言語能力】

国語 音楽 英語（外国語）

#### ○グループB【情報活用能力】

数学 理科 技術・家庭

#### ○グループC【問題発見・解決能力】

社会 美術 保健体育

各グループで教科横断的な視点に立ってチームでの検討会を実施した。

#### (2) 提案授業、カンファレンスの様子

提案授業を実施する3週間前より、各グループでの検討会を行っている。3週間前には提案授業を行う教科の先生方とグループチーフの少人数で、2週間前からはグループ全体での検討を行う。検討会では、単元全体をとおして学習することで定着させたい資質・能力を育成することができるか、育成するためのねらいやしかけは適切か、などを検討し、グループ全員が提案者という意識をもって取り組んでいる。

カンファレンスでは、「授業はねらいに迫っていたか」や「授業のしかけはねらいを達成するため

のものになっていたか」を検討する会である。教師や生徒が授業について本音で話し合い、今後の授業をどう良くしていくかを検討している。参加する生徒の中には、何度か経験したことで、教師と対等に考えられる生徒もでてきた。



### (3) 校内研修会の様子

昨年度に引き続き「主体的に学習に取り組む態度」の評価についての研修を授業改善アドバイザー三浦修一先生のもと行った。3観点の評価に変わり、特に「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法について多くの先生方からも課題があげられていた。

また、初の取り組みとして、提案授業という形ではなく、5・6校時の普通の授業を三浦先生に参観していただいたり、教員同士による参与観察で授業参観したりといった方法を取り入れた。三浦先生からは多くの先生方にアドバイスをいただき、普段なかなか他の先生方の授業を参観できない教員にとってもよい機会となった。

### (4) ICT の活用

授業の中で ICT を活用する機会は年々増加している。今年度行った提案授業でも、生徒が主体的に学習できるツールとして ICT 機器が活用された。特に、「Google Classroom」や「Jamboard」、「スライド」や「フォーム」などは多くの授業で活用されている。また、モニターやプロジェクター、書画カメラなど、状況に応じて使い分けた授業を行っている。



## 3 実践の成果

### (1) 教師や生徒の変容

教師側はこれまでと比べ、授業で ICT を効果的に活用できる場面が増えてきた。特に、考えを比較させたり、授業の振り返りを行ったりする場面などでは、有効活用できている。

生徒側は、1年生から3年生へと学年が上がるにつれ、タイピング能力やアプリケ

ーションツールなどの活用が確実にレベルアップしている。また、中学校入学当初から ICT 機器を活用する能力が高い生徒が増えており、生徒同士で活用方法を教え合ったりする場面が増えてきたと感じる。



### (2) カンファレンスの成果

教師と生徒が共に考える仕組みをつくれたことが成果である。また、このカンファレンスの後に生徒のみでカンファレンスを行っており、学習者が授業のねらいについて把握するのに有効であることが分かった。

## 4 今後の展開

### (1) もっと見せ合う授業へ

5・6校時を利用しての授業参観は教員にとってよい刺激となった。さまざまな対応や業務により、他の先生の授業を参観する機会の設定は難しい状況であるが、今後の目標として学期に1回程度、こうした参与観察により授業力向上に努めていきたい。

### (2) 残された課題への対応

教員側の課題は ICT を活用するための考え方の変化だと考える。ICT を活用するために単元を組み立てるのではなく、生徒の資質・能力を育成するための手助けとして ICT を使い続けていきたい。また、日々進化し続ける ICT 機器やアプリを活用できるよう、学び続けていきたい。

生徒側の課題は情報モラルをどう養っていくかだと考える。様々なトラブルを予測し、それに対応できる知識やスキルを日々の授業などをとおして考えさせていきたい。